就職活動応援特集

東京都下水道サービス

管路部 南部エリア管路課 目黒事業所 主事　**加賀谷 悠聖さん**

見えにくい下水道への貢献を目指す

■故郷・秋田から東京へ

東京都下水道サービス（TGS）は、東京都政策連携団体として1984年に設立。東京都下水道局との一体的な事業運営を行い、下水道管の維持管理や設計・施工管理から、水再生センター・ポンプ所施設・汚泥処理施設の運転・保全管理など、多岐にわたる業務を担う下水道専門集団。下水道サービスの維持向上を目指し、社員一丸となって都民の生活に不可欠な下水道を支えている。

加賀谷悠聖さんは、秋田高専在学中に土木を専攻。4年生の時に下水道の処理に関する研究室に配属され、下水処理場の見学や、関連する論文に触れる機会があった。その中で先生からの紹介や、オンライン説明会でTGSに興味を持ったという。

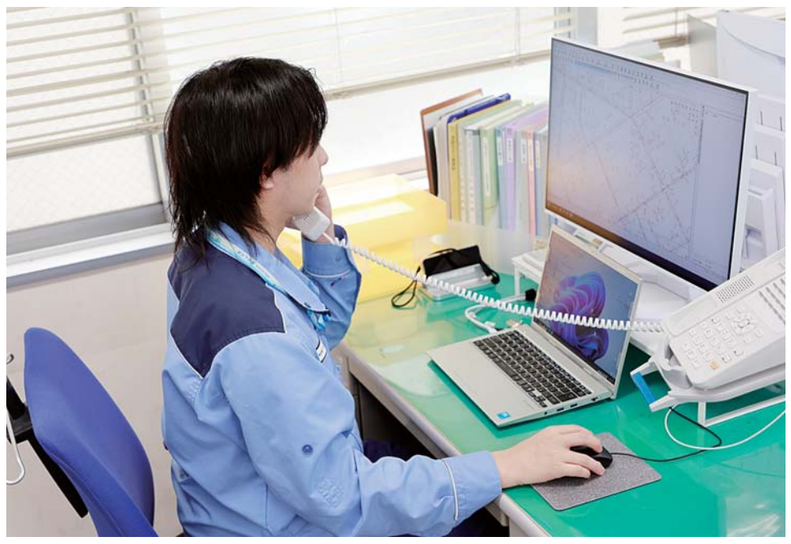
下水道の規模が大きくさまざまなことができる東京で、見えにくいが重要な下水道に関わりたいという思いが故郷・秋田を離れ東京での挑戦を後押しする一手となった。入社後は目黒事業所に配属され、今年で4年目となる。

■先輩に聞ける風通しの良さ

主な業務は施設の維持管理、電話でのお客さま対応。また、建築現場で新しい汚水ますを設置する工事の監督補助も務める。

電話対応では、初めて会う人と仕事での慣れない言葉遣いや、お客さまからの問い合わせ対応が苦手だったというが、先輩の力やアドバイスにより克服していった。

特に最初は知識不足から「怖い」と感じていた電話対応も、先輩のフォローや経験を通して克服し、ヒアリングでニーズをまとめ、所内での対応を進めることができるようになったという。



業務を通し課題克服へまい進する

先輩のフォロー受け苦手を克服

汚水ますは、建物から発生し下水道管へ流れる生活排水が詰まりを起こした場合に、カメラを入れる点検孔として工事の依頼を受けて業者への発注や調整、トラブル対応に当たる。お客さまとはないが、粛々と依頼通りに業務を進める力が求められる。工事は1カ月ほどで終わるが、10～20件を並行して扱う。

複数ある工事現場について、全体把握することを心がけ、知識不足の実感といった課題を抱える中、職場環境は先輩・上司・東京都OBのベテラン社員と相談しやすく、フランクにコミュニケーションが取れるという。自分一人では悩まずに進んでいける風通しの良い環境がある、と続けた。

1日のスケジュール

8:30	始業、朝礼
8:45	打合せ
9:00	メールの確認
9:30	業務資料作成 電話対応 現場立会
12:00	昼休み
13:00	現場確認 電話対応
16:30	業務資料作成
17:15	終業

■充実のサポートとライフワークバランス

プライベートな時間は、アウトドアで過ごすことが多いと語る。会社のいいところに終業後でも人と会う時間を作りやすく、リフレッシュに友人と外出しやすいことを挙げた。休日には趣味の旅行にも行く。最近は、非日常感を求めて京都や九州へ訪れたという。

就職活動中の学生へのメッセージをお願いすると、「自分が研究でやっていた内容と業務内容は違いますが、下水道に特化した専門的な知識がなくてもしっかり学べる環境があります」と語り、「社員寮や研修制度などのサポートが充実しているため地方から出てきやすい環境もメリットです」と続けた。また労働条件に関しては同年代と比べても良好で、有給休暇を取得して、故郷の秋田には頻繁に帰ることができる余裕もあるという。

加賀谷さんは今後の目標に「自分が先輩にしてもらったように、後輩に質問された時にしっかりと教えることができるようになりたい」と語った。その言葉から、未来の後輩をサポートし、安心して業務に当たれるTGSの温かい社風が感じられた。

クボタ

東京本社 パイプシステム事業推進部 販売促進課　**中村 真優さん**

事業の変革期 新たな視点で前に

■「壁がある。だから、行く。」

学生時代は法学部で政治学を専攻し、比較憲法を中心に学びを深めた。その傍ら、高校時代から教育支援のボランティア活動にまい進。塾に通えない子どもたちへの学習補助に取り組んできた。

一見「水」とは関わりのない学生生活に見えるが、ドイツ留学中の2015年、シリア難民が町に大量に流入し、飲み水を配る場所に長蛇の列をなしている光景を目にしたことが一つの契機となった。「15歳の自分にとってその光景は強烈で、蛇口をひねればすぐに飲み水が出てくることがいかに素晴らしいかを実感した」のだという。また、大学時代に上下水道の広報活動に携わる機会を得たことで、水に深い縁を感じ、水インフラに関係する企業へ就職したいという思いが芽生えた。

就職活動では、日本が世界に誇る高い技術力で世界の人々の豊かで快適な生活の整備に貢献できること、そして人々の生活に欠かすことができない社会基盤の整備に関わることの2軸を意識し、企業選びを行った。

その最中、クボタへの思いを強くしたのは、上水から中水、下水まで幅広い分野で事業展開している世界トップクラスの水関連総合メーカーであり、自分の志を実現できると確信したから。そして何よりも、同社の「壁がある。だから、行く。」というコピーが自分自身が最も大切にしている価値観と同じだったからだという。

■何事も丁寧に向き合う

現在は、東京本社パイプシステム事業推進部販売促進課に所属。入社から今年で4年目を迎えた。パイプシステム事業部は、ダクタイル鉄管を主力製品として製造販売を行っており、その中で展示会の企画運営、営業用カタログや展示品・販促品の製作、営業支援システムの管理などの幅広い広報業務を担当している。

初期配属から広報を担当することになったため、「製品知識が乏しい中で、製品のPRツールの制作や展示会に関わることは、とても難易度が高かった」という。しかし、同じ部署はもちろん、営業、技術部門の社員にも助けてもらったことで、今では自信を持って仕事を進められるようになった。

仕事で大切にしていることは、何事も丁寧に向き合うこと。パイプシステム事業部は、鉄管の製造販売にとどまらず、水道管路全体の課題を解決するソリューションを提供していこうという、まさに事業の変革期を迎えている。そうしたタイミングで入社し、これまでにない新たな視点からの意見や提案を求められることも多い。「『壁がある。だから、行く。』の精神を大切にし、答えのない問いにも諦めず向き合うことで、事業の発展と水道事業が抱える課題の解決に貢献したい」と前向きな姿が印象的だ。

■自分の「軸」を探す

同社には働きやすい職場を実現するためのさまざまな制度があり、ライフスタイルに合わせた働き方を可能としている。育休・産休を取得している割合も高く、復帰後も時短勤務や在宅勤務制度を使って、柔軟に働いている社員も多いため、「自分がその立場になっても不自由なく働くことができるだろうという安心感を抱いている」という。

また、全社を挙げて有給休暇の取得を推進しているため、プライベートの時間が充実し、学生時代よりも趣味が増えたそう。最近は登山やランニングにも勤しんでいる。

学生に伝えたいことは、自己分析の大切さ。「一番の目的は就職活動に生かすことだったが、結果的には社会人になってからの軸にもつながった。プラス、マイナスそれぞれ譲れない軸があると、会社選びもしやすい」と力強く話す。

もちろん会社のPRも忘れない。「当社は高い技術力と幅広い製品ラインナップで世界中の水インフラの整備・維持に貢献している。特に世界を舞台に仕事がしたい方、挑戦できる環境が好きな方にはおすすめの会社」と笑顔を見せた。

答えのない問いにも向き合って

丁寧なＰＲを心がける

休日は趣味でリフレッシュ

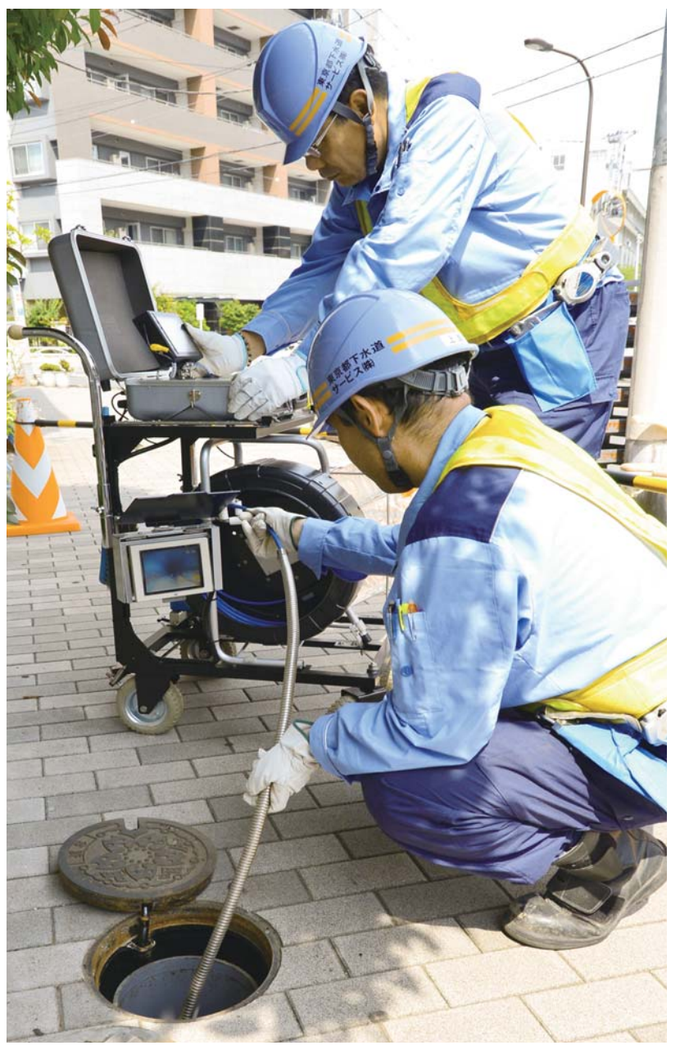
1日のスケジュール

8:30	出社 メール対応 事務作業
12:00	昼食・休憩
12:45	企画書、会議資料作成 打ち合わせ
17:30	退勤

下水道の力で、
持続可能な社会を“あたりまえ”に

日々の安心で快適な生活は、下水道が「あたりまえ」に機能し続けることで成り立っています。「あたりまえ」は時代と共に変わるものです。SDGs が描く、未来の「あたりまえ」にも応え、挑戦する企業でありたい。東京都下水道サービスは東京都下水道局のパートナーとして、下水道の力で持続可能な社会の実現に貢献していきます。

『当社は下水道展 '25 大阪に出展いたします』

TGS 東京都下水道サービス株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-3
TEL 03-3241-0711　https://www.tgs-sw.co.jp